

現代短歌における二重表記の役割

—日本語学的見地から—

清水 恵理

【キーワード】

二重表記、振り仮名、ルビ、現代短歌、表記表現

【要旨】

日本語表記の特徴の一つに多様な二重表記があり「兵隊」「啓発本」のように本文である主表記、振り仮名である副表記の間に意味の異なりがある用例が現代短歌において見られる。本研究で独自に設定した「現代短歌の二重表記分類」を用いて分析した結果、以下が明らかになった。

- 1) 代名詞を用いた二重表記使用率の低さ
- 2) 新奇性の高い二重表記の役割の拡充（本分類 1 限定〈1-2 記号〉・5 相補・6 比喻）
- 3) 男性作者によって新奇性の高い二重表記が牽引されている可能性

現代短歌において、これまで研究されてきていない表記表現の一種として多様な二重表記が隆盛していることが明らかになり、今後二重表記の役割は拡充していく可能性が高いという結論に至った。

1. はじめに

二重表記¹は、難読漢字や固有名詞の読みを示すほかに、(1)のように二種以上の読みを持つ漢字の読み方を副表記に示すものが多い。一方で現代短歌では、(2)のような特殊な読みを示す例がみられるようになってきた。

- (1) 営業車走らず一日彼方^{ひとひ}には夏雲^{かいな}が描く腕^{うで}の素描 天道なお『NR』

¹ 本研究では、泉（1993）「二重表記」の定義に倣い、以下の二つの条件のいずれかを満たすものを二重表記と定義する（1993:96）。1「短歌(たんか)」のように語形を()の中に示すもの、2「短歌^{たんか}」のように語形を振り仮名で示すもの、以上 1、2の本文に当たる「短歌」を「主表記」、1「(たんか)」2「^{たんか}」を「副表記」と記す。本研究では、一般的に「振り仮名」「ルビ」と呼ばれる読み部分のみではなく、本文でもある主表記を含め、同等に注視する必要があると考えたため、泉（1993）の定義を採用した。

(2) ひとりでも嬉しい夜は兵^{トランプ}隊を灯りの下で整列させて

原田彩加『黄色いポート』

(2)は主表記「兵隊」の読みが「トランプ」というわけではなく、「トランプ」のカードが模す「兵隊」について二重表記を用いて表現していると考えられる。二重表記を用いることで情報量を増やし、複線的に語のイメージを拡張させる役割を持つ用例が散見されるようになってきた。しかしこのように本来の読み方以外を示す二重表記は研究の余地がある。さらに泉(1993)において、散文に比べ韻文は二重表記使用率が高いことが明らかになっているにも関わらず、現代短歌を対象とした二重表記研究は僅かである。そこで現代短歌における二重表記の実態調査からその機能を整理し、新しい表現技法の一つとして拡充していることを明らかにすることを研究目的とした。

2. 先行研究

二重表記の歴史は長く、通時的な研究や言語体系と表記の関わりについての研究が盛んに行われ、特に文学ジャンルや年代を限定した研究などからはその成果がみられる。二重表記について概観し、時代別・特徴別にまとめているものとして今野(2009, 2013)が挙げられる。ジャンル別に見ると小説を扱った岩淵(1988)、大島(1989)、小説の他諸ジャンルを扱った京極(1981)ではそれぞれ分類を設定し分析を行なっている。漫画では当て字とされる二重表記のみを扱った白勢(2012)があり、本来的な読み以外を示す新奇性の高い二重表記研究を前進させたと言える。また詩歌を研究対象とした先行研究は、佐竹(1993)、泉(1993)が挙げられる。なかでも俳句の表記言語について論じた佐竹(1995)では、新たな表記使用による表現拡大への期待を展望に挙げている。

しかしながら現代短歌の多様な二重表記は、これまでの二重表記分類では網羅できない用例が存在しているのは明らかである。その主な理由として、それらの研究が概ね2000年代以前のものであることが挙げられる。

そこで先行研究を参考に二重表記分類を刷新し、現代の用例に対応した分類項目を設けることを課題の一つとした。文学ジャンルによって二重表記の特徴が異なることは、先行研究から明らかになっている。そこで日本語学的見地から行われることの少なかった現代短歌の二重表記を対象とすることで、二重表記の役割を新たな観点で論じることができると考えた。

3. 調査及び分析結果

3-1 調査資料

資料①「新鋭短歌シリーズ」(書肆侃侃房) 42 歌集

②「現代歌人シリーズ」(書肆侃侃房) 22 歌集

使用実態の調査資料としたのは 2013～2019 年に刊行された「新鋭短歌シリーズ」42 歌集及び「現代歌人シリーズ」22 歌集(書肆侃々房)の計 64 歌集である。①「新鋭短歌シリーズ」は、学生短歌サークルや Twitter をはじめとする SNS など、個性豊かな創作活動を行い注目されている作者の個人歌集である。②「現代歌人シリーズ」は、前衛短歌を牽引してきたと評価される歌人、またはポスト・ニューウェーブ歌人と評価されている作者の個人歌集である。本研究で注目する特殊な二重表記は、新たな表現方法を積極的に試みていると評価されている上記シリーズに豊富に収録されていると考え調査対象とした。

3-2 分析方法

二重表記の用例を分析するにあたり分類項目が必要であったが、先行研究の分類は、研究対象や除外条件や文芸ジャンルの特徴の違いから用例を網羅することが困難であった。そこで先行研究を参考に本研究独自の現代短歌の二重表記分類を設定し、分類ごとの特徴を分析した。用例分析には、表 1「現代短歌の二重表記分類」を用いる。

なお使用が一般的であり、主表記の読み方を指定するが特殊ではない分類、1 限定、2 翻訳をまとめ〈読みとしての二重表記〉とし、本来的な読み方とは異なり表記に表現意図がある分類、3 代名詞、4 説明、5 相補、6 比喩をまとめ〈表現としての二重表記〉として区別する。本研究で注視するのは後者である。ただし詩歌で使用されることの多い自然物、地名などの固有名詞のなかで、難読漢字の読みを示す二重表記については、本稿の目的から外れるため調査対象から除く。

表 1 現代短歌の二重表記分類

分類	二重表記の役割	例	下位分類：用例
1 限定	副表記が主表記の読みを限定する	ケン 犬	ひとひ 1-1 限定: 「一日」 イコール 1-2 記号: 「 = 」
2 翻訳	主表記の和語英訳等を副表記に示す	ドッグ 犬	シスター 「修道女」
3 代名詞	代名詞で主表記を指す	おまえ 犬	きみ 「妹」
4 説明	主表記が副表記の具体性を示し説明する	わんこ 犬	とき 「時間」
5 相補	相互に語の表現を補い合う	うちのこ 犬	ベストセラー 「啓発本」
6 比喩	「～のような～」の関係で一方を喩える	モップ 犬	まなこ 「惑星」

■1 限定

1 限定は、今野(2009:52)「二つの読みを持つ漢字」を参考に設定した。二種類以上の読みが存在する主表記に対して、その読み方を副表記に示すものである。また先行研究にて分類が存在しなかった記号に対する読みを示す二重表記も収集されたため、下位分類〈1-1 限定〉〈1-2 記号〉を設けた。

■1 限定〈1-1 限定〉 副表記が主表記の読みを限定するが、読み方は特殊ではない。

(3) 明日から、いや、たった今、成績を飲み下したらもう夏休み

千葉聡『海、悲歌、夏の雫など』

■1 限定〈1-2 記号〉 記号の読みを副表記に示す。

(4) まだ何もない(^{blank})の新しい場所より熱がうまれるきっと 天道なお『NR』

■2 翻訳 主表記の和語英訳等を副表記に示す。

翻訳的な機能を持つ二重表記は今野(2009)、白勢(2012)他、多くの先行研究で分類項目が設けられており、使用は一般的な二重表記であるといえる。

(5) 街角で突きつけられて飛びのいたナイフじゃなくて聖書^{バイブル}だった

谷川電話『恋人不死身説』

■3 代名詞 副表記に代名詞を用いて主表記を指す。

先行研究で扱われているものも多く、岩淵(1988)では「魔獣」「北岸地峡」など例を挙げて考察を行なっている。また白勢(2012)は、人称代名詞、指示代名詞ともに広く用例が観察できたとし代名詞を用いた二重表記分類について論じている。

(6) 8ミリのカメラに手をふる^{おれ}美がいたモノクロームのあの夏の日の

笹公人『念力ろまん』

■4 説明 具体的な意味を持つ主表記が、副表記を説明する。

4 説明は、主表記と副表記はともに同一物を想定しており、語自体に結びつきが強いことが条件になる。例を挙げると「父親」など、熟字訓とされるものの多くが含まれることになる。「父親」と「(おやじ)」の二語の読みは異なるが同一物を表していることが想定されており、ともに(+親)(+男性)であるという共通項が認められる。主表記がより具体的な役割を持ち、かつ副表記に対して説明的に機能している二重表記 4 説明に分類した。今野(2009)他多くの先行研究で使用されていることが論じられている。

3-3 分析結果

64 歌集を調査した結果、52 歌集から本調査の対象となる用例 426 例を収集した。また特徴的な二重表記を使用する作者に性差があるかを調査するため男女別の集計を行った。男女の内訳は男性 24 名、女性 28 名である。用例数と作者人数を分類別に集計した結果を表 2 に示す²。

表 2 「分類別集計²表」(総数 426 例, 52 名)

	下位 分類	用例 (男性)	用例 (女性)	用例 (合計)	人数 (男性)	人数 (女性)	人数 (合計)
1 限定	1-1 限定	74	112	186	16	22	38
	1-2 記号	4	6	10	2	4	6
2 翻訳		56	70	126	18	19	37
3 代名詞		1	0	1	1	0	1
4 説明		44	38	82	11	15	26
5 相補		12	2	14	6	1	7
6 比喩		0	2	2	0	2	2
不明		1	4	5	1	2	3
合計		192	234	426	(24 名)	(28 名)	(52 名)

上記結果から〈読みとしての二重表記〉322 例(構成比 76.5%)、〈表現としての二重表記〉99 例(構成比 23.5%)を収集し、使用が一般的である〈読みとしての二重表記〉が 7 割以上を占めていることが明らかになった。また〈表現としての二重表記〉の内、8 割以上を 4 説明が占めており、このような例の使用が顕著に高いことがわかる。次に各分類別の調査結果を踏まえ考察を行う。

■1 限定

全用例 426 例中 196 例(構成比 46%)が 1 限定である。下位分類の内訳は〈1-1 限定〉186 例、〈1-2 記号〉10 例である。〈1-1 限定〉を使用する作者は 52 名中 38 名と多く、男女ともに 7 割を超える作者が使用している。構成比の高さ、作者数、性差の低さから 1 限定は一般的に使用が認められている二重表記であるといえる。先行研究で多く扱われていることに加えて、調査結果からも使用が一般的であると実証された。

² 特殊な二重表記の使用には、作者年齢に影響すると考えられるため作者年齢を含めた調査が妥当であると考えたが、調査で扱うシリーズでは女性歌人 8 名が年齢を公表しておらず、年齢別の調査は困難であったため本研究では性差での調査を行なった。

■1 限定 〈1-1 限定〉

- (11) 営業車走らず一日^{ひとひ}彼方には夏雲が描く腕^{かいな}の素描 天道なお『NR』再掲

用例数が多かった語は、「朝(あした)」8例、「一日(ひとひ)」7例、「眼(まなこ)」7例、「魚(うを)(うお)(ウオ)」7例、「腕(かいな)」3例である。二つ以上の読みの中から、相対的に読まれにくいものが副表記に選択されやすいと考えられる。(11)で「(うで)」を無標の読み方とすると「(かいな)」は、限定する必要がある有標の読み方であるといえる。

■1 限定 〈1-2 記号〉

- (12) まだ何もない^{b¹aⁿk}の新しき場所より熱がうまれるきつと
天道なお『NR』再掲

- (13) ^{大なり}> ^{小なり}でも ^{イコール}= ^{イコール}でもいいは奇跡みたいで怖くなるから
嶋田さくらこ『やさしいぴあの』

(12)は「(かっこ)」と読まれることで字足らずとなることを避ける意図がある。記号に副表記を示す例は珍しく、先行研究で扱われてきていないことから新奇性の高い表記であることがわかる。(13)は漢字・平仮名・片仮名を使用した副表記を示していることが特徴的である。記号による表象が効果的に機能しているといえる。

■2 翻訳

- (14) ^{レビュアー}が^{アーキテクト}が^{オーナー}が日ごとに替わるサイレンが鳴る
堀合昇平『提案前夜』
- (15) 三つのベースに人満ち風に砂が舞ひ打者、野手、客は^{ピッチャー}投手を待つ
惟任将彦『灰色の図書館』

2 翻訳は、126例(構成比29.5%)収集できた。作者別にみると男性18名(79.1%)、女性19名(64.3%)の使用があり、男女ともに半数以上の作者によって使用されていることがわかった。(14)のように理解しやすい外来語が存在し、音数の削減に有効である場合は特に翻訳的役割として二重表記が使用されやすいといえる。(15)「打者」「野手」「投手」ともに野球のポジションを示す同類語であるにもかかわらず、二重表記が振られているのは「投手」のみであることから、音数調整の役割があることは明らかである。

■3 代名詞

(16) 8ミリのカメラに手をふる一美^{おれ}がいたモノクロームのあの夏の日の

笹公人『念力ろまん』再掲

代名詞を扱った例は男性作者による1例のみ収集できた。この作品の解釈については定かではないが、副表記に一人称代名詞を使用することで副表記「(おれ)」が、主表記「一美」を客観的に捉え、切り分けているような印象を与える。代名詞を用いた二重表記の使用は、小説や漫画他の文学ジャンルにおいて多用されていることは先行研究からも疑いの余地がない一方、現代短歌ではあまり使用されていない、もしくは使用されにくいとも考えられる。

■4 説明

4 説明に分類される例が82例(構成比19.2%)あり、1 限定、2 翻訳に次ぐ用例数がある。また4 説明を使用する作者数は全体の約半数の26名で、使用に大きな性差はみられない。先行研究で扱われていることとあわせて本調査の結果からも1 限定、2 翻訳同様、使用が一般的であると十分言えるだろう。しかし4 説明の用例は外延が広いので、考察に際し便宜的に用例を5つのタイプに分ける。まず〈4-1 要素〉〈4-2 包摂〉〈4-3 概念〉については、図1の2つの条件を設けて論じる。

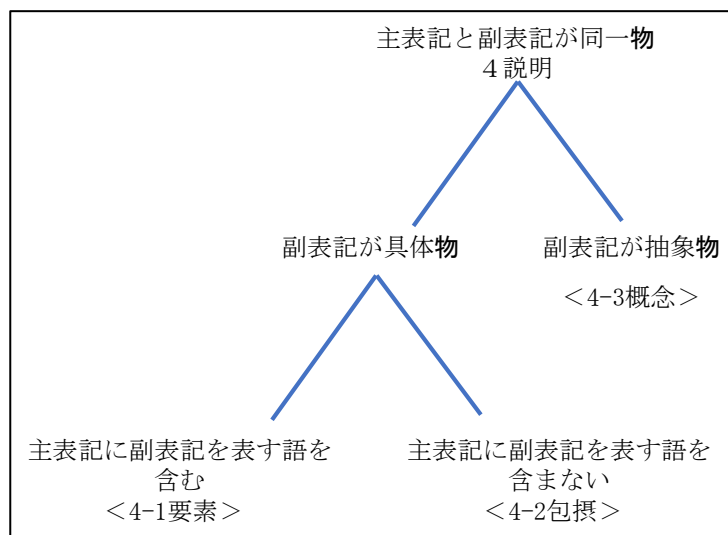


図1 「〈4-1 要素〉 〈4-2 包摂〉 〈4-3 概念〉分類条件」

なお具体物か抽象物かの切分けは、基本的には副表記に示す語に形があるかもしくは触れられるかで判断する。また主表記に副表記をあらわす語を含むか否かについて「桜^{はな}花」と「桜^{はな}」を例にあげると、副表記「(はな)」の漢字を含む「桜^{はな}花」は〈4-1 要素〉、「桜^{はな}」は〈4-2 包摂〉とする。更に〈4-4 略語〉〈4-5 オノマトペ〉を設けた。

■4 説明 〈4-1 要素〉 副表記が具体物かつ主表記に副表記と同じ読みをする漢字が含まれる。

(17) 長椅子の少年達を車^{まど}窓に見てブーフーウーとあだ名をつける

佐藤涼子『Midnight Sun』再掲

(18) 自閉する日々にも秋の降るように惑^{ほし}星は優しく地軸を傾ぐ

法橋ひらく『それはとても速くて永い』

(17)「車^{まど}窓」(18)「惑^{ほし}星」ともに意味範囲の広い和語を副表記に示し、具体的な要素を主表記の漢語で示しているものが多い。

■4 説明 〈4-2 包摂〉³ 副表記が具体物かつ主表記に副表記と同じ読みをする漢字が含まれない。

(19) 揚げいもに唇^{くち}よせて大股でゆくきみの前も後もぼたん雪

雪舟えま『は一は一姫が彼女の王子たちに出逢うまで』

(20) 草花の由来おしえる博^{ひと}士と呑む焼酎にはあかるい故郷見える

陣崎草子『春戦争』

(19)「(くち)」は、意味の範囲が広く曖昧な印象を与えるのに対して、「唇」はより具体的な語である。(20)のように「(ひと)」に対して、属性や職業等を主表記に示す例は珍しくない。

³ 用例を整理する目的から便宜的に表記による分類を行ったため本来、包摂関係となる例（「彼岸^{はな}花」「白^{とり}鳥」など）を〈4-1 要素〉に含むこととなった。そのためこの小分類に関しては、改善の必要がある。

■4 説明 〈4-3 概念〉

(21) びんづめの少女の翅とかみのけは西陽まばゆき^{とき}刻のあのいろ

吉田隼人『忘却のための試論 Un essai pour l'oubli』

(22) ハンカチの振られ具合が暗示する^{きもち}情考へかんがへみねむり

紀野恵『白猫倶楽部』

(23) ^{わか}理解りあふといふのは映画のワンカット “水に挿した青い花、など

林和清『去年マリエンバートで』

副表記が抽象物もしくは動詞を示すものである。用例数は25例で作者数は10名である。熟字訓として使用されることが多い二重表記タイプであり、和語の柔らかい音、概念的な意味の範囲が広い語を好む現代短歌に適しており扱いやすいことから、使用が多くみられる。(21)のように「とき」を副表記に示す二重表記は多く、「時間」「季節」等がある。また他の分類では殆どみられなかった、(23)のように動詞を示すものが見つかっている。

■4 説明 〈4-4 略語〉

(24) 城壁の弾痕潜り抜けるたび^{もんしろ}紋白蝶白く白くなりゆく

惟任将彦『灰色の図書館』

(25) またひとつ無人駅増え 席ゆづるべき乗客のみない^{あぶきふ}阿武隈急行

吉田隼人『忘却のための試論 Un essai pour l'oubli』

(26) Google のニュースながめてプロジェクトマネージャー^Mのテキスト開いたところ
で眠る 浅羽佐和子『いつも空をみて』

主表記の語の一部を省略して副表記に示すものである。省略は短歌において音数調整の目的での使用が多いことは想定できる。(24)や「^{はるな}榛名山」「^{あかぎ}赤城山」のように拘束形態素を省略する例が多く見つかっている。短歌に限らずこのような省略は使用されやすい。(25)「阿武隈急行」は「あぶくまきう(ふ)こう(ふ)」の一部を省略した例である。主表記の一部を省略した例は「^{ぜんま}全身麻酔」「^{しょくじ}食器洗淨器」等がある。(26)のように主表記には複合名詞によって具体物を提示しながらも、音数はアルファベットのみで示すことが可能となり、音数制限に対して経済的な表記表現である。佐竹(1995)が示唆した、音数制

限による俳句の有限性を打破する新表記表現として、略語を使用した二重表記がその一端となる可能性は否定できない。

■4 説明 〈4-5 オノマトペ〉

(27) 保育園のおままごとでは赤ちゃん^{バブ}役ときまっているらしケチャップの口

浅羽佐和子『いつも空をみて』

主表記の語をあらわすオノマトペを副表記に示すものである。これまでに論じた研究はなく比較的新しい二重表記の使用だといえるだろう。(27)は、赤ちゃんの泣き声や話し声を表現するオノマトペ「(バブ)」を示している。「赤ちゃん」と「(バブ)」は繋がりが強く理解しやすい。

上記のように語の意味範囲の広い副表記に対して、主表記にその具体性を持たせる4説明は、現在安定的な使用があるといえる。

■5 相補

(28) ああ自分 啓発本^{ベストセラー}を読むたびに膨らんでゆく干からびてゆく

堀合昇平『提案前夜』

5相補に分類した用例は14例(男性12例、女性2例)、作者7名(男性6名、女性1名)で、用例・作者数ともに数は多くないが、性差の偏りがあった。5相補に分類される用例を使用した女性は、全体で1名であり、用例数は2例と男性に比べて少ない。これまで先行研究であまり扱われておらず、増加の傾向がみられる分類であるが使用者に性差があると言える。「啓発本^{ベストセラー}」は、「ベストセラーの啓発本」「啓発本のベストセラー」のように主表記と副表記のどちらも修飾語として言い換えることができる。この場合、自分が膨らみ干からびるきっかけが「(他のジャンルの本もある中で)ベストセラーの啓発本」か「(数多くある)啓発本の中でベストセラーになった本」かと、解釈の幅を作り出す。どちらか一方が説明的に機能しているわけではなく、相互に意味を補い合い一首が成立するため、主表記と副表記が同等の意味の役割を持つという特徴がある。用例数はまだ少ないものの注目に値する。

(29) ディフェンスは腰を落として顔上げて世界^{コート}で起こることすべて見ろ

千葉聡『海、悲歌、夏の雫など』

(29) 「世界」を「コート^{コート}の世界」とし、「試合場(コート)が一つの小さな世界であ

」という隠喩を元にした解釈が可能である一方、「世界のコート」とすれば「世界大会の試合をしている試合場（コート）」という換喩を元にした解釈をすることが可能である。

- (30) 「^{スコセッシ監督}タクシードライバー」のラスト五分は死んだあとの夢だよなんで気づかない
 んだ 林和清 『去年マリエンバートで』

(30) は「スコセッシ監督」が製作した（『タクシードライバー』という映画）のことである。「（スコセッシ監督）の『タクシードライバー』であれば、その次の句の「ラスト五分は」にも意味が繋がっていくが、単に副表記を読むだけでは大きな破調を生むだけでなく、下の句への繋がりが悪く歌意からも大きく外れる。そのため読みと内容ともに、主表記を中心としており副表記はその補助的な役割を果たしていると言える。

5 相補では、主表記と副表記それぞれに解釈に必要な意味を示す役割を持たせ、三十一音で収まり切らない情報の包含を二重表記が可能にしている。一般化が広く認められている 1 限定・2 翻訳・4 説明では大きな性差がみられなかったのに対して、5 相補では用例・作者数に僅かながら性差の偏りがみられた。そのため、5 相補のような役割を持つ二重表記は一般化する前段階であり、主に男性歌人によって牽引されていると想定できる。

■ 6 比喩

- (31) 青嵐 まぶたに舌を押しつけて皮下にうごめく^{まなこ}惑星とあそぶ
 陣崎草子 『春戦争』再掲

- (32) ひとりでも嬉しい夜は^{トランプ}兵隊を灯りの下で整列させて
 原田彩加 『黄色いボート』再掲

(31) は、「惑星」の形態や色彩と「まなこ（眼）」に類似性を見出し「惑星のような（まなこ）」と示した二重表記である。眼球が単なる身体部位ではなく、神秘的で遠いものとして惑星を想起したかもしれない。(32) は、前述の通り「兵隊のようなトランプ」という比喩の関係で表現している。「兵隊」を副表記なしで示した場合、玩具の兵隊か実際の兵隊のことであるのかと曖昧な点を残す。二重表記を示すことにより「（トランプ）」が擬人化され、「整列させる」にも繋がりがやすくなる。比喩を発想の起点とした二重表記は女性作者による 2 例のみであるため、この結果のみで作者や役割の特徴について論じるには至らないが、これまで論じられておらず今後注視する必要があると言える。

4. まとめと今後の課題

分析結果をまとめると、先行研究の多い 1 限定・2 翻訳・4 説明の使用は用例数が多く、使用に性差はあまりみられなかった。一方で、調査結果から〈表現としての二重表記〉の中でも注目すべき点として以下が挙げられる。

1) 代名詞を用いた二重表記使用率の低さ

3 代名詞の用例数は、426 例中 1 例と少なかった。二重表記に代名詞の使用が多いと論じられている漫画や小説などの文学ジャンルとは異なる特徴が現代短歌にはあることが想定されるが、この実証については稿を改めることとする。

2) 新奇性の高い二重表記役割の拡充（本分類 1 限定〈1-2 記号〉・5 相補・6 比喻

〈1-2 記号〉・5 相補・6 比喻分類を含め先行研究の分類でも網羅できない特殊な二重表記が多く収集された。単なる読み方を示すに留まらない現代短歌の二重表記は、表記によって新表現を模索する日本語の動きの先端の一つであると言える。

3) 表現意図のある〈表現としての二重表記〉を男性作者が牽引している可能性

5 相補の使用には性差の偏りがあることが明らかであった。この結果から男性作者による積極的な二重表記の創作が盛んになりつつあると評価できる。

本研究では、〈表現としての二重表記〉の中でも特に新奇性の高い分類項目を中心に分析を行うことで、これまで論じられることの少なかった二重表記の役割を、詳しく分析することができた。しかしながら〈表現としての二重表記〉の機能は幅広く、階層化する明確な基準を設けることが困難であったため、分類項目の一部ははまだ課題が残っている。

また日本語学として学術的な研究対象となりにくい現代短歌であるが、他の文学形態と同様に、新表現を模索する動きが繰り広げられていることには疑う余地がない。今後は、本研究で設定した分類基準を改修しつつ、現代短歌における二重表記という表記表現の動向に注目し続けていく。

参考文献

- 泉文明(1993)「二重表記の現在-短歌・俳句の表記の調査-」『日本語学』12(3), pp. 95-104, 明治書院
- 岩淵匡(1988)「振り仮名の役割」『日本語の文字・表記(下)』(講座日本語と日本語教育 9), pp. 58-86, 明治書院
- 内山和也(2002)「振り仮名表現の諸相」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第 2 51, pp.301-309
- 大島中正(1989)「表記主体の表記目的から見た漢字仮名並列表記形式-いわゆる振り仮名形式をめぐって-」『同志社女子大学学術研究年報』40(4), pp.440-454 同志社女子大学教育研究推進センター

- 今野真二(2009)『振り仮名の歴史』集英社新書
- 今野真二(2013)「振り仮名 二つの言語の架け橋 (特集 ことばの名脇役たち)- (書きことば)」
『日本語学』32(5), pp.144-156, 明治書院
- 今野真二(2013)『正書法のない日本語』岩波文庫.
- 今野真二(2015)『図解 日本語の歴史』河出書房新社.
- 京極興一(1981)「振り仮名表記について」『信州大学教育学部紀要』44, pp.222-210
- 佐竹秀雄(1980)「表記行動のモデルと表記意識」『電子計算機による国語研究 X』10, pp.142-168 (国立国語研究所報告 67) 秀英出版
- 佐竹秀雄(1993)「俳句における振り仮名の用法と意義 (現代俳句と振り仮名(ルビ) (特集))
『俳句研究』60(2), pp.36-41, 富士見書房
- 佐竹秀雄(1995)「現代俳句と言語研究」『日本語学』14(1), pp.19-24, 明治書院
- 白勢彩子(2012)「「当て字」の現代用法について」『東京学芸大学紀要』63, pp.103-108
- 武部良明(1979)『日本語の表記』角川書店
- 半沢幹一(2016)『言語表現喩像論』おうふう

調査資料

- 「新鋭短歌シリーズ」(書肆侃侃房) 2013年5月～2018年12月
- 「現代歌人シリーズ」(書肆侃侃房) 2015年4月～2019年3月

付記

本研究は、日本語学会 2019 年度秋季大会 (2019 年 10 月 26 日 (土) 東北大学) で口頭発表した内容及び、修士論文 (清水 2019) の調査 1 を修正・加筆したものです。発表の際には多くの先生方から貴重なご教示を賜りました。感謝申し上げます。

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程)